

* NOTICES *

Japan Patent Office is not responsible for any damages caused by the use of this translation.

1. This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.

2. *** shows the word which can not be translated.

3. In the drawings, any words are not translated.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-135822

(43)Date of publication of application : 17.05.1994

(51)Int.Cl.

A61K 7/06

(21)Application number : 04-330863

(71)Applicant : MIMURA AKIO
MIMURA TSUTAE

(22)Date of filing : 27.10.1992

(72)Inventor : MIMURA AKIO
MIMURA TSUTAE

(54) HAIR GROWTH-PROMOTING, HAIR-REARING AND HAIR COLOR-CHANGING AGENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To supply nutrition to hair root and simultaneously supply zinc, iron content, etc., to hair in order to promote hair growth, rear hair and grow whitened hair to black.

CONSTITUTION: A bur of young Japanese chestnut is baked until dark brown and powdered and an alum is added, thereto and these components are mixed with oils (sesame oil, camellia oil, jojoba oil, etc.) and the mixture is allowed to stand for 2-3 months and then, the extract is applied to a lesion. The extract of the bar component of young Japanese chestnut, alum and oils act on hair root and central function of middle hair follicle. Thereby, regeneration function of hair is activated and effect capable of promoting hair growth, rearing hair and regenerating whitened hair to black are exhibited.

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

Best Available Copy

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-135822

(43)公開日 平成6年(1994)5月17日

(51)Int.Cl.⁵

A 6 1 K 7/06

識別記号

庁内整理番号

8615-4C

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 1(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平4-330863

(22)出願日 平成4年(1992)10月27日

(71)出願人 592254799

三村 昭雄

滋賀県彦根市中央町 1 番21号

(71)出願人 592254803

三村 つたゑ

滋賀県彦根市中央町 1 番21号

(72)発明者 三村 昭雄

滋賀県彦根市中央町 1 番21号

(72)発明者 三村 つたゑ

滋賀県彦根市中央町 1 番21号

(54)【発明の名称】 発毛促進・育毛・毛髪変色料

(57)【要約】

【目的】 薄毛、白髪は、ある年代に達した人々が、だれしも気になる人類永遠の悩みである。本発明は、この悩みを解消すべく、種々の研究の結果、毛根に栄養を補給すると同時に、発毛促進、育毛、白くなった髪を黒く生育させるためには、まだ実施されていない亜鉛、鉄分等の補給こそ、その目的達成のための重要な要素であることが判明し、その目的を達成した。

【構成】 若い栗のイガを暗褐色になるまで蒸し焼き、粉末化しミョウバンを加え、油類（ゴマ油、椿油、ホホバ油等）と混合、2～3カ月放置後その抽出液を患部に塗布するものである。

【効果】 栗のイガの成分とミョウバン、油類との抽出液が、毛根並びに中部毛包の中核機能に働きかけ、毛髪再生機能を活発化し、発毛促進、育毛、白くなった髪を黒く再生させる効果を発揮し、本発明を完成した。

【特許請求の範囲】

栗のイガを暗褐色になるまで蒸し焼き、粉末化し、油類と混合、ミョウバンを加え、数カ月常温放置したる抽出液を含有する発毛促進・育毛・毛髪変色料。

【発明の詳細な説明】

本発明は、栗のイガを暗褐色になるまで蒸し焼き、油類とミョウバンを混合したる抽出液を含有する発毛促進、育毛、毛髪変色料に関する。皮膚に刺激なく安全に長期使用出来るものである。従来の発毛促進、育毛料には、各種の化合物、生薬の抽出液が適用されているが、これらはすべて毛根、つまり毛乳頭の毛母細胞への必要栄養素を補給することにより、発毛促進、育毛の効果をねらっているが、今一つ顕著なる効果がなく、時には長期連続使用により、皮膚炎等の弊害などありその欠点があった。本発明は種々の実験の結果、この様な欠点もなく、本発明を完成した。従来の発毛促進、育毛料と全く異なった点は、毛根の一番下部にある毛乳頭で新生毛が生成されると言う原理が通常であったが、実は毛根のほぼ中央にある中部毛包に毛髪を再生させる中枢機能があり、この毛髪再生に欠くことの出来ない、タンパク質、ミネラルは勿論のこと、新たに亜鉛が、毛髪再生に重要な役割を持っていることに着目し、本発明をすすめた。(昭和58年11月・東京日本美容外科学会にて藤田恵一防衛医学大学皮膚科教授・当時・が中部毛包再生説を発表)

人体には亜鉛をはじめ、銅、マンガン、ニッケル等16種の「必須微量ミネラル」が含まれ、それぞれの生命維持に不可欠な働きを持っていることは周知の通りである

が、亜鉛は成人体内に1.4gから2.3gあり、そのうち約20%は皮膚組織中に存在し、毛髪中には、血液中の亜鉛の約2倍もの量を含有している。亜鉛は、毛髪の再生の鍵を握っているのである。新しい毛髪が再生する為には、毛根の細胞が活発に分裂を繰り返し、新しい毛髪が生まれ、成長している。この細胞分裂が起こる触媒として働くのが亜鉛である。毛髪を分析すると、18種にのぼるアミノ酸(タンパク質)が含まれているが、これらがしっかりと結合して、太く強い毛髪が形成されている。なかでも、シスチンやメチオニンなどの含硫アミノ酸の量が圧倒的に多く、この合成結合に不可欠な物質が亜鉛である。さらに亜鉛は、毛髪を黒くするメラニン色素の産生にも多大な役割をはたしている。本発明は、既述の理論に基づき、長期使用しても害なく、安全に発毛効果を得る為、発毛に必要な養分を多量に含まれた栗のイガと、ミョウバン、油を主材とし、次の製法に基づき、本発明の発毛促進・育毛・毛髪変色料を完成した。

栗の成分：100g中

タンパク質・・・2.9g

脂肪(質)・・・0.3g

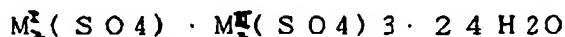
炭水化物・・・35.5g

カロチン・・・47mg(マイクログラム)

ビタミンA・・・2.5u(単位)

他、ビタミンC1, B2, C、鉄、リン、カルシウム等
ミョウバン：一般式

$M^1M^2(SO_4)2 \cdot 12H_2O$ 又は、



で示される複塩の総称で、 M^1 は、1価の金属イオン、あるいはアンモニウムイオン、 M^1M^2 は、3価の金属イオンの含水硫酸塩、

次に本発明の発毛促進・育毛・毛髪変色料の製造行程は、栗のイガ(栗の実が成熟する以前の若いイガ)を暗褐色になるまで蒸し焼き、これを粉末化し、椿油、ゴマ油、その他ホホバ油(皮膚への浸透性が強く、べとつかないなど利点が大きく、発毛に効果があるとされている)等の油類と混合し、ミョウバンを適量混ぜ、2~3カ月常温放置後、ろ過した抽出液を薄毛部分、円型脱毛部分、又は脱毛部分に塗布するものである。本発明の発毛促進・育毛・毛髪変色料は、既述の理念にもとづく、毛髪再生のための養分を充分満たし、次に示す実験結果を生み出した。

実験例1：円型脱毛症(男性)

塗布後3カ月・・・肉眼で見える程度のうぶ毛

塗布後6カ月・・・うぶ毛が太めに発育、約5mm

塗布後10カ月・・・毛髪は黒く変化し、約8mmに成長

塗布後12カ月・・・10mmの普通毛、黒髪となる

実験例2：薄毛(女性)

塗布後3カ月・・・うぶ毛発生を認める

塗布後6カ月・・・太めになり6mmにのびる

塗布後10カ月・・・黒髪10mmに成長

塗布後12カ月・・・普通毛13mmに成長

実験例3：無毛状態に近いハゲ(男性)

塗布後3カ月・・・変化なし

塗布後6カ月・・・極細毛4mm

塗布後10カ月・・・黒白混じりの細毛、7mmに成長

塗布後12カ月・・・細毛で黒髪10mmに成長

上記実験例に示すごとく、完全な発毛効果を現し、6カ月以上経過すると黒髪に変化し、新毛髪の発生する結果を得た。この事実は、栗のイガが暗褐色に蒸し焼いたため、既述の製法による抽出液は濃黒褐色であり、栗のイガの養分とミョウバンの亜鉛、鉄分等の金属イオンの働きが相乗作用となって、メラニン色素を増加させ、黒髪を発生させたものである。この実験結果は、ただ発毛をうながすのみでなく、染色ではない黒髪を新生させるという大きな成果結果を得て、本発明を完成した。本発明の発毛促進・育毛・毛髪変色料は、常法に従って、化粧品、医薬品等の基材となり、ヘアートニック、ヘアーロ

ーション、ヘアークリーム、軟膏、又はフォーム状の頭 髪料等、その応用範囲の広いことも提案する。